



# 日本の 希少音楽資源にふれる

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター  
平成23年度後期セミナー

今年度後期の伝音セミナーは地歌・箏曲に注目し、Sレコードで残された希少音源を中心に様々な演奏をお聴きいただきます。

進行役 久保田敏子(日本伝統音楽研究センター所長)  
大西 秀紀(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

## 第5回 平成23年10月6日(木) 会場:京都市立芸術大学 名家のレコード

後期伝音セミナーの第1回は、菊原琴治、富崎春昇、米川親敏、初代上原真佐喜、鈴木鼓村といった、現在から二世代ほど遡った時代に活躍した人達の演奏をお聴きいただきます。

## 第6回 平成23年11月17日(木) 会場:京都市立芸術大学 箏組歌、段物、砧物のレコード

第2回で取り上げた、菊原琴治の三味線組歌のレコードが作られたのとはほぼ同じ時期に、中橋暁夢も古曲保存の重要性を唱え箏組歌のレコード化を実現しました。今回はそれらの珍しいレコードに加え、段物、砧物の演奏を宮城道雄、菊原初子、萩原正吟らのレコードで併せてご紹介いたします。

## 第7回 平成23年12月1日(木) 会場:京都市立芸術大学 箏曲長唄の長時間レコード

箏曲長唄とは耳慣れぬ名称ですが、長唄の楽曲を箏伴奏にアレンジしたもので、楯城護(1904-1980)がニットー長時間レコードに「越後獅子」「吾妻八景」の2枚を残しています。一般にSレコード一面の録音時間は3~5分ですが、大正の終わりから昭和にかけて発売されたこの長時間レコードは、片面12分の録音を実現しました。ただ再生に特殊な装置が必要のため、これまで簡単に聴くことができませんでしたが、今回のセミナーのために新たにデジタル化いたしました。果たして箏曲長唄とはどのようなものなのでしょうか、お楽しみに。

## 第8回 平成24年3月8日(木) 会場:@KCUAギャラリー 地歌・箏曲レコードの黄金時代

現在大きなCDショップでも、純邦楽のコーナーの品揃えは決して豊富ではありません。しかし昭和40-50年代にレコード各社が競うようにして、数多くの純邦楽レコードを制作・発売した時期がありました。地歌・箏曲に関しても、現在残されている音声資料の大半は、この時期に記録されたといっても過言ではありません。これらの中にはCD化されていないものも多くあり、現在では入手困難な資料になりつつあります。最終回はこれらのLPレコードに注目いたします。

**時間** 14時30分~16時30分(14時受付開始)

**定員** 先着50名(事前申込み不要)

**問合せ先** 京都市立芸術大学教務学生支援室(事業推進担当) Tel 075-334-2204

**会場** 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター合同研究室1(新研究棟7階)  
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6  
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA  
〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1

参加  
無料

### 交通 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター



芸大前バス停から徒歩すぐ。  
国道沓掛口バス停から正門まで約10分。  
新林池公園バス停から正門まで徒歩20分。  
〒611-1197  
京都市西京区大枝沓掛町13-6

### 交通 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA



地下鉄「二条城前」駅(2番出口)南東へ徒歩約3分、市バス「堀川御池」バス停下車すぐ  
〒604-0052  
京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1  
<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>